

高島平50周年イベント キックオフ会議

意見のまとめと今後の進め方

開催概要

日 時

平成30年11月1日（木）19時～21時

場 所

高島平地域センター第一洋室

参加者

12名 + 中島直人（副センター長）・三牧浩也（事務局）・事務局メンバー3名

内容

- ・最初45分程度で、50周年イベントの目的や過去2回のスクールの概要を説明しました。
- ・その後、1時間以上かけて、参加いただいた全員から、イベントの立て付けやアイデアについて、順次意見をうかがいました。

コメント① イベント全体の目的や位置づけ、基本的な進め方

今後の方針案

●いかに実践につなげるか

- ・アイデアだけであれば言えるが、形にならなければ意味がない。イベントから、そのあとのまちづくりにどうつなげるのか。

⇒「公・民・学」の連携をつくるには時間がかかります。このイベントから何かすぐに具体的な形にすることは難しいですが、**地道につながりをつくるきっかけとして考えたい**と思います。

●ターゲットや評価を明確に！

- ・ターゲットを地域の「中の人」か「外の人」かどちらにするかによって、考え方が異なる。
- ・評価指標を明確にして、次年度以降につなげる。

⇒まずは、**地域に暮らす「中の人」をターゲットとし、「中の人」が楽しんでいることで「外の人」を集めるという考え方に立ちます。**
⇒評価指標を考えましょう。単純に来場者数ということだけでもないと思います。

●「高島平」全体でまとまる必要性は？

- ・高島平といっても、一丁目～九丁目まで性格・特色が異なる。それぞれで考え、頑張れば良い。無理に全体をまとめる必要があるか。
- ・既存の連携団体でも、参加者（組織）の思いが様々で、まとまって活動する難しさがある。

⇒高島平は「二丁目団地」のイメージが先行しがちです。イベントにあわせて**二丁目だけではない高島平の資源を発信する機会に**しましょう。
⇒**町会を越えて活動している団体や施設の連携も大切に**しましょう。

●まちの課題を知るイベントに！

- ・「五十知命」（孔子）の言葉にあるように、高島平のまちの使命・命題を知る50周年にしてはどうか。啓発活動に力を入れるべき。
- ・まちの資源の発信だけではなく、地域の課題に気づき、考えるきっかけにするイベントにしてはどうか。（舗装の老朽化、休憩場所、移動手段等々）

⇒まちの課題の明確化や意識の啓発については、3/2にUDCTakが主催するパネルディスカッションでとりあげたいと思います。
⇒地域連携企画では、**地域活動や施設を知ること**に力点を置きましょう。

●地域の様々な団体が既存の活動の延長線上でできることを！

- ・地域で活動している団体も多忙。既に様々な活動の予定もある。イベントがバッティングして参加できないことが多い。
- ・時間も少なく、既にそれぞれの団体も予定がある。無理して新たにつくるのではなく、既存の活動の延長でその時期にできることを集めて、まとめて情報発信してはどうか。
- ・マルシェなど実績のある方と一緒にやるべき。

⇒「無理して」新規にイベントを立ち上げるのではなく、**各団体や施設が通常活動の延長で、一緒にこの期間取り組めることを集めましょう。**
それをまち全体として発信しましょう。

イベント系

●赤塚公園の活用

- ・赤塚公園でマルシェやグリーンテラスを拡大開催するなど。
- ・赤塚公園で大学生と一緒にバーベキューというくらいなら、簡単にできるのでは。

赤塚公園 大学（学生団体）

●西洋砲術保存会との連携

- ・西洋砲術保存会 赤塚梅まつり演舞（赤塚溜池公園・赤塚城址）が3/2-3の週末にある
- ・高島秋帆に由来する「高島平」の地名。時期をあわせて高島平地域内で行ってもらうことが打診できないか

西洋砲術保存会

●町会別対抗戦

- ・何か一丁目から九丁目の対抗戦を赤塚公園などで行うと盛り上がるのでは。

町会（連合会）

●スポーツ・体を動かす場所

- ・荒川河川敷でパークゴルフ
- ・高島平緑地でスラックライン

スポーツ系団体

●「音（音楽）」のある街

- ・高島平は音がなくて寂しい。都営三田線の高架下でいつも演奏をしているなど、音のある街にしたい。

音楽系団体

今後の方針案

- ⇒参加者の活動団体や施設で実施可能な企画をそれぞれ検討しましょう。
- ⇒参加者それぞれのネットワークのなかで、イベント等を企画・実施していただく可能性のある団体、関連する施設管理者に相談し、意向を確認しましょう。

展示・情報発信

●まちの成り立ち写真展

- ・小学校ごとに持っている過去の写真を集めて展示してはどうか。
- ・団地の写真展は好評だった。団地に限らず高島平地域の昔の写真を集めて展示をしてはどうか

小学校・高島平新聞社

●都営三田線の各駅での連動企画

- ・西台から西高島平まで4つの駅の展示コーナーなどを使って展示やPRを実施

都交通局

●情報発信・掲示板

- ・いかにPRするか。街なかの掲示板がボロボロでチラシが貼れない。
- ・50周年記念ということで、特設掲示板をつくってみてはどうか。

集会施設ほか

ツアー

●まちの緑や自然を巡る

- ・緑の多いのが高島平の特徴。それぞれの地域や施設の人が、各場所の緑や自然を説明するイベントをしてはどうか。

花壇管理者・自然系団体

●コミュニティスペースツアー

- ・コミュニティスペースのツアーなどであれば、通常のコミュニティスペース運営の延長線上でできる。

コミュニティスペース運営者

パネルディスカッション

●パネルディスカッション

- ・3/2土曜日に予定しているパネルディスカッションはしっかりやった方が良い。

UDG-Tak

コメント③ 実施にあたっての留意点など

●連携してイベントを行う団体・施設が主体性を持てるように！

- ・パンフに各参加団体の名前をしっかりと載せるなど、主体的に参加できるように進める。
- ・小さい企画、これはどうかな、というものも広く受け入れることが大切。

●お年寄りに配慮する

- ・歩くことに支障のあるお年寄りも参加できるイベントにするには。

●街のイメージ発信、楽しいイベントに！

- ・地味な街を粋な街にしたい
- ・まじめすぎるイベントは楽しくない

●こどもの意見も聞こう

- ・これからのまちにつなげるためには、こどもたちの意見も聞くべき。

●一人ひとりの市民が参加できるように！

- ・既存の団体に所属している方だけでなく、一市民としても参加できるようにすべき。

●四季の景色など、季節や時間ごとに変化する魅力もある

- ・限られた季節や時間でしか見えない（現れない）景色や場所の魅力がある。短期のイベントで見せきれないものをどう考えるか。

今後の方針案

⇒パンフの中で、各参加団体の名前はもとより、活動内容の紹介なども検討したいと思います。
⇒多様な企画を幅広く受け入れましょう。

⇒高齢者でも参加可能な企画について考えましょう。

⇒パネルディスカッションなど「まじめ」な企画を行う一方で、地域からの企画は、粋をはずせず多くの住民や地域の方々が楽しんで参加できることを大切にしましょう。

⇒こどもたちが参加してまちのことを知り、考えられるような企画も検討しましょう。

⇒初めての個人でも参加できたり、部分的にでも協力可能な機会をつくりたいと思います。

⇒まずは、この春先の時期にできることを行いましょう。
⇒昼だけでなく、夜のイベントも検討してみよう。

まとめ イベントの目的と実施に向けた基本方針

- **イベントの目的**：①高島平で活動する団体や施設が「50周年のお祝い」を機に、ゆるやかにつながるきっかけをつくること。
②高島平で暮らす多様な人々がそれぞれに楽しみ、そのなかでまちのことをより知り、考えるきっかけをつくること。
- **実施の基本方針**： 高島平に係る団体や施設が通常の活動の延長でこの期間に取り組める企画を集め、それをまち全体として発信する。

次回

日 時

平成30年11月16日（金）19時～21時

場 所

高島平地域センター第一洋室

内容

- 参加メンバーそれぞれが関連する団体や施設等において、実施可能な企画の情報・アイデアを持ち寄り共有する。
- 全体としての組み立て（ゆるやかなテーマなど）や、情報発信方法について意見交換する。
- 今後の具体的なスケジュールと役割分担について確認する。

次回（16日）までの進め方

UDCTak事務局で行うこと

- ・都や区の施設におけるイベント情報や連携可能性、場の利用に係る協力可能性について情報収集
- ・UDCTak主催事業であるパネルディスカッションや、大学連携プロジェクト（ヘリテージ、防災等）での企画内容の具体化

参加メンバーが行うこと

- ・それぞれの活動団体や施設で実施可能な企画の検討
- ・ネットワークの中で協力・連携できそうな活動団体や施設に係る情報収集
- ・組み立て方や情報発信に係るアイデア